



ラボの紹介



明星大学



1. 調査研究の概要 (構成団体:社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団)



テーマ

虹色発見ラーニングジャーニー
子供たちの自己理解の機会をつくり、興味関心を引き出して学びにつなげる

検証内容

感覚特性プロフィールと虹色特性の自己理解を踏まえ、子供一人ひとりの特性に応じた支援方法を検証

対象

小学2年生～中学3年生

実施時期

R7年1月～3月(8回)

実施場所

くにたち未来共創拠点矢川プラス
及び協力フリースクール

活動内容

子供自身が自分の特性(7色の虹色で表現)を肯定的に理解し、気になったヒト・モノ・コトを深掘りできるワークショップやラーニングコンテンツの体験を実施

活動内容

第1回	虹色ワークショップ
第2回	絵本制作
第3回	思考力×コミュニケーション講座(1)
第4回	思考力×コミュニケーション講座(2)
第5回	アニメーション制作
第6回	思考力×コミュニケーション講座(3)
第7回	はたけんぼ探索
第8回	好きな遊び探し

活動概要

2. 調査研究活動の様子(1)



第1回:虹色ワークショップ



様々な素材やイラストで自分自身の虹色特性を表現している様子

第2回:絵本制作



画用紙やモールを使って絵本を制作している様子

第3回:思考力×コミュニケーション講座(1)



試行錯誤しながら、カプラ(木製ブロック)を積み上げている様子

第4回:思考力×コミュニケーション講座(2)

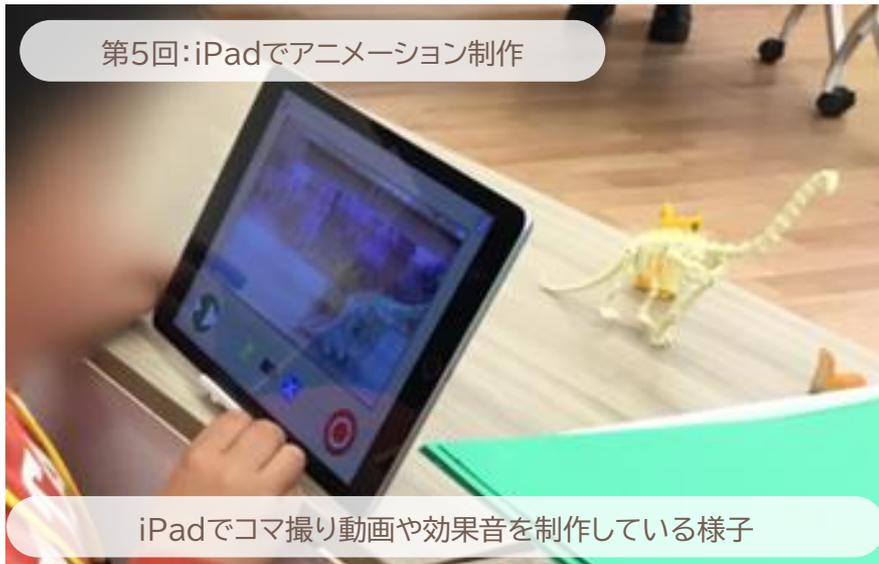


カードの組み合わせにより本のタイトルを制作している様子

2. 調査研究活動の様子(2)

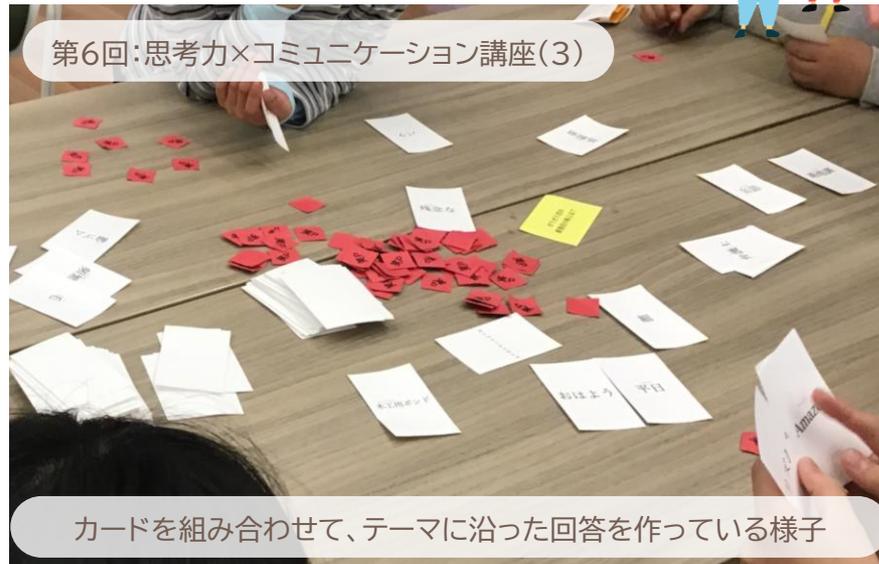


第5回:iPadでアニメーション制作



iPadでコマ撮り動画や効果音を制作している様子

第6回:思考力×コミュニケーション講座(3)



カードを組み合わせて、テーマに沿った回答を作っている様子

第7回:はたけんぼ探索



子供が案内役となり、フリースクールでの遊び方を探索する様子

第8回:好きな遊び探し



ボールやブーメランを使って「動の遊び」をしている様子

3. 調査研究活動の関係者の声



参加児童生徒の声

- 行ってみたら意外に楽しくて、何回も参加することができた
- 大学生の先輩たちとも話やすく楽しかった
- 知らない人とでも「それ面白いね」という感じで、自然に会話ができ面白かった
- 普段のフリースクールの活動では(環境的に)できないiPadを使った活動や言葉遊びができて新鮮だった

フリースクールスタッフの声

- 子供たち一人ひとりの参加の仕方を尊重してもらえたのがすごく良かった
- 活動の中で子供たちそれぞれが学びを得ているということを感じた
- 普段は不安感の強い子が全ての活動に参加できていて、それが本人の達成感にもつながっている様子が見られて嬉しかった
- 音楽を楽しんだり、アニメーションを作る活動などを通じて、子供たちが自分で考えて表現し、学ぶことで、新しく好きなことを見つけるきっかけとなった

ラボメンバーの声

- 自分が得意なことや、それをどう活かせるかということ、努力してもうまくできないことやその対処方法を知り、子供が自身の特性を理解し肯定的に捉えることが重要である
- 全員で同じ活動を行う場合と、同じテーマの中で自由に選んだり工夫できる活動を行う場合の2つのパターンで、子供たちの様子を見ることができてとても有意義だった
- 子供たちにとって何が課題なのか、一人ひとりしっかりとアセスメントをとることができ、結果として活動内容が合う・合わないのパターンが分かってくるなど新たな発見があった